キャタピラー編み

2012.3　XRQ TechLab

パラシュートコードが手に入りましたので、これを使ってキャタピラー編みをしてみました。

この編み方は１本のコードを編み込んでいくのですがコードの両端を引くと、元の状態に解くことができます。つまり、普段はこのようにまとめておき、コードを使いたいときには簡単にコードの状態に戻せる編み方です。

どのくらいの長さになるかを示します。
下に置いた物差しは１５ｃｍです。
上側のものは４ｍのコードを編み込んだものです。
下に示したものは３ｍのコードを編み込みました。
普段使う長さのコードをこのように編んでおくと携帯しやすくなると思います。

３ｍのパラシュートコードを普通にまとめたものですが、結構かさばります。

①　編み始め

コードの真ん中あたりに引き解け結びを作ります。その結び目側に吊し金具を入れました。

この金具のある辺りがコード全体の真ん中になると編み込んでいったとき両端がちょうどよく揃うようになります。

金具の入った側（引き解け結びの結び目側）を折り返し、上の引き解け結びの輪の中に入れます。

ここで金具が、コード全体の真ん中あたりになるよう再度調整します。

金具を通って上の引き解け結びの輪の中に入った部分は、新たな引き解け結びになっています。

しっかりと結びつけるとこのようになります。上側の輪は引き解け結びの輪になっています。

このキャタピラー編みは引き解け結びを繰り返すことで構成されています。

②　キャタピラー編みの編み込み

　引き解け結びになっているコードのうち、結び目側のコードで新たな引き解け結びを作ります。
　結び目をできるだけ元の結び目に近づけるようにするとしっかりとした編み方になります。

　新たに作った引き解け結びの輪を、先に作った引き解け結びの輪の中に入れます。

　元の引き解け結びの輪を引き絞って新たに作った引き解け結びの輪を固定します。
　このとき、結び目同士がくっつくようにするとしっかりとした編みになります。

　あとはこの繰り返しです。
　いま引き絞ったコードでまた引き解け結びを作り、その輪をこの輪の中に入れます。

③　編み終わりの処理

　編み込むコードが短くなったら、これまで引き解け結びの輪を入れていたところにコードをそのまま通してしまいます。

　これで固定できます。解くときはこの部分だけを外せばコードの両端を引くことで編みが解けていきます。

　編むのには結構時間がかかりますが解くときはあっという間というのもおもしろいものです。

※　**パラシュートコード**はパラコードとも呼ばれ、ナイロンの細糸をより合わせコア(芯)を数本束ねたものを編んだナイロンでカバーしてあるものです。非常に丈夫で耐久性も高く、太さは 3.5mm φから 4mm φと細いのですが、引っ張り強度は 250kg もあると言われています。内部は継ぎ目のないナイロン糸を撚って作られていますので、それを解せば釣り糸のテグスのような使い方もできます。

　素材がナイロンですので、引っ張り強度は大きいのですが、熱には弱く、剪断力には弱いようです。ですからザイルのような使い方はできません。

　切った後はそのままにしておくとほつれてきますので、コードの端の処理はライターの火であぶり、固めてしまう方法が一般的です。

　フィールドではさまざまな用途に使いますので、適当な長さのものを複数持っていると便利です。